

復興道路《E45 三陸沿岸道路》

三陸沿岸道路がけせんぬま気仙沼市までつながります！

平成31年2月16日（土）に2区間14kmが開通

国土交通省が整備を進めてまいりました「うたつもとよし歌津本吉道路（うたつ歌津IC～こいずみかいがん小泉海岸IC間延長10.0km）並びに「もとよしけせんぬま本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（もとよしつや本吉津谷IC～おおやかいがん大谷海岸IC間延長4.0km）が2月16日（土）に開通する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

《トピック》

- ①津波浸水区域を回避でき、信頼性の高い高速ネットワークが形成されます。
- ②地域の基幹産業である水産業・水産加工業の振興を支援します。
- ③救急搬送時の安定性・速達性向上が期待されます。
- ④観光誘客の促進・広域観光の活性化を支援します。

1. 開通区間

うたつもとよし歌津本吉道路（うたつ歌津IC～こいずみかいがん小泉海岸IC） 延長10.0km
もとよしけせんぬま本吉気仙沼道路（Ⅱ期）（もとよしつや本吉津谷IC～おおやかいがん大谷海岸IC） 延長 4.0km

2. 開通日

平成31年2月16日 土曜日

※当日の開通時刻、開通式典等については、後日お知らせいたします

※歌津本吉道路、本吉気仙沼道路（Ⅱ期）は、自動車専用道路（無料）であり、歩行者、自転車、軽車両、125cc以下の二輪車は通行できません

なお、インターチェンジの名称を以下のとおり決定しましたので、併せてお知らせします。

うたつきた歌津北インターチェンジ ←（仮称）うたつきた歌津北インターチェンジ
こいずみかいがん小泉海岸インターチェンジ ←（仮称）うなざわ卯名沢インターチェンジ
もとよしつや本吉津谷インターチェンジ ←（仮称）もとよし本吉インターチェンジ

※インターチェンジ名称については、地元自治体の意見を反映し決定しております

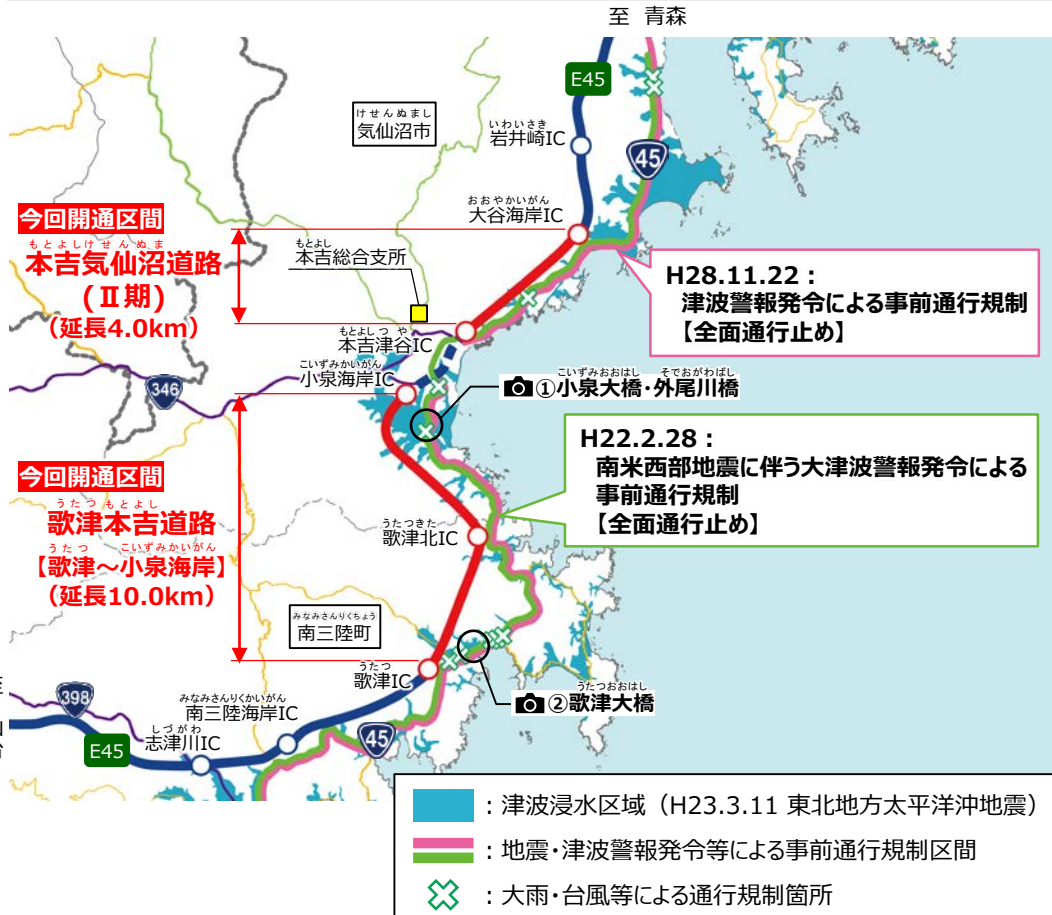
<記者発表会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、石巻記者クラブ、気仙沼記者クラブ>

【お問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所 TEL 022-248-4131
副所長 えんどう遠藤 まさし雅司（内線205）

うたつもとよし もとよしげせんぬま
 【歌津本吉道路・本吉気仙沼道路(Ⅱ期)】津波浸水区域を回避でき、信頼性の高い高速ネットワークを形成

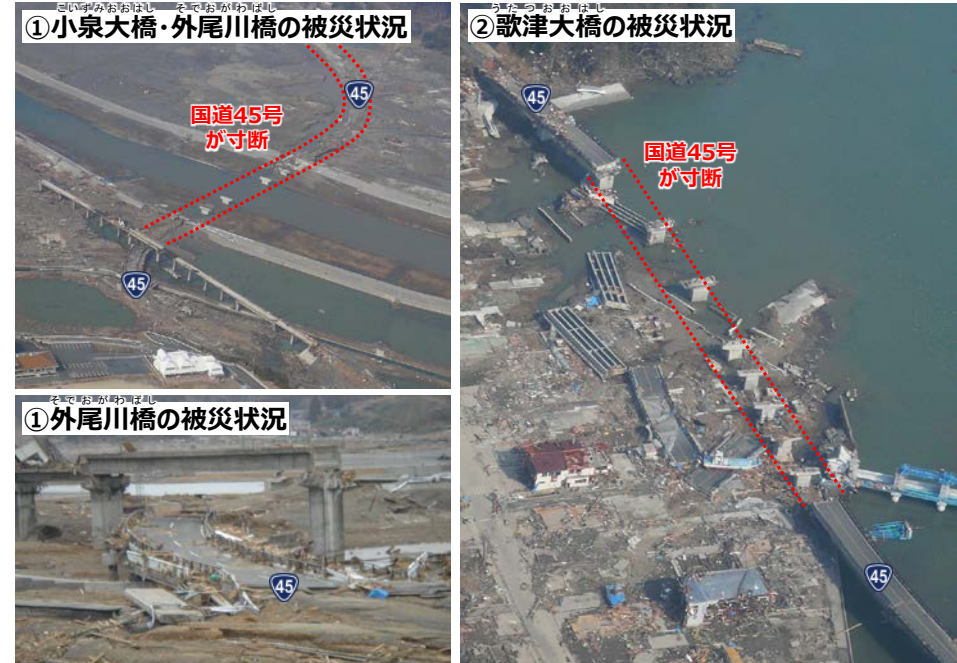
- ◆東北地方太平洋沖地震（H23.3.11）では、南三陸町内および気仙沼市内において津波により国道45号が浸水し、交通ネットワークが寸断
- ◆また、大雨による通行規制や、津波警報発令による通行止め等も発生
- ◆うたつもとよし もとよしげせんぬま歌津本吉道路・本吉気仙沼道路(Ⅱ期)の整備により、津波浸水区域を回避でき、災害時にも緊急輸送路として機能する信頼性の高い高速ネットワークを形成



▲国道45号の津波浸水状況および通行規制状況等

資料：通行規制実績（H20年度～H29年度）

【東日本大震災による国道45号の被災状況】



出典：国土交通省東北地方整備局震災伝承館

【気仙沼市の声】

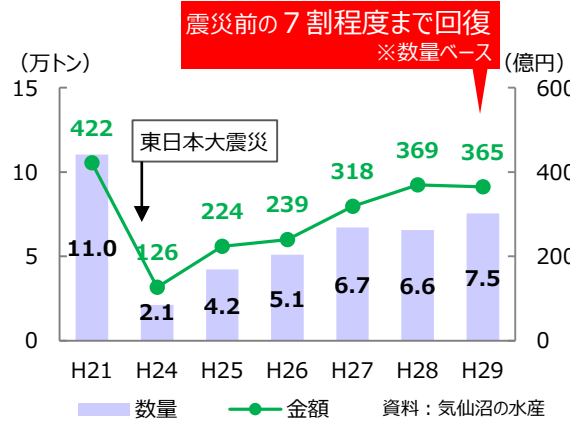
●東日本大震災時には、沿岸部で国道45号の交通が完全に寸断されたため、狭隘な市道で迂回しての救援物資の輸送となりました。三沿道が整備されると、市内の各ICにより被災地区へのアクセスが確保され、災害時における迅速な救援・復旧活動への寄与が期待されます。

(H30.5ヒアリング結果)

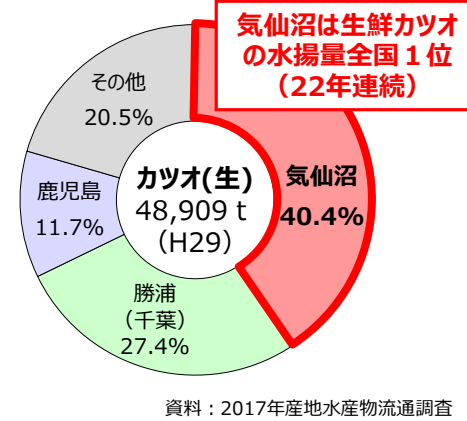
- ◆ 気仙沼市の水産業・水産加工業は、東日本大震災により大きな被害を受けたものの、三陸沿岸道路の整備とともに震災直後の約3.5倍、震災前の7割程度の水準まで回復
- ◆ 気仙沼市の水産関連企業では、三陸沿岸道路の延伸により、輸送ルートを従来の東北縦貫自動車道利用から三陸沿岸道路利用に転換する動きが見られる
- ◆ 気仙沼市が整備中の水産加工団地等の整備と併せて、地域産業のさらなる振興を後押しし、沿岸地域全体の復興に寄与



【水産加工品生産状況の推移】



【漁港別の水揚量シェア】



水産加工施設等の集積地・水産加工団地の整備状況

みなみけんぬま
南気仙沼地区
 面積：約11ha
 立地予定企業数：55
 稼働企業数：42 (稼働率：76.4%)
 ※隣接地に共同荷捌き場を整備中

ししおり
鹿折地区
 面積：約18ha
 立地予定企業数：22
 稼働企業数：20 (稼働率：90.9%)

あかいわみなと
赤岩港水産加工団地
 面積：約20ha
 立地予定企業数：14
 稼働企業数：7 (稼働率：50.0%)



※3地区とも東日本大震災の復旧・復興事業として整備を実施。被災企業の再建を中心に、操業が進んでいる。

資料：気仙沼市提供資料

【気仙沼市の水産関連企業の声】

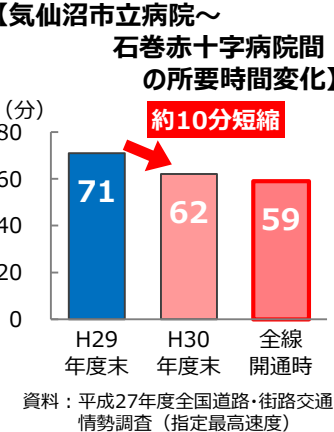
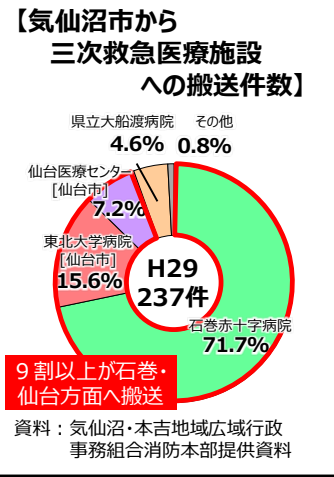
- 昨年度の三治道開通により、**東北道利用からの一部を三治道の利用に切り換えました。**
- 三治道延伸により輸送時間がさらに短縮すれば、その分を作業時間に充てることができ、**生産量の増加・売上げの増加**につながります。
- 輸送時間の短縮により、**朝採れ品の販売エリアが拡大**することが期待されます。(H30.10・11ヒアリング結果)

【気仙沼市の声】

- 三治道整備により、**交通面での利便性が大きく向上**するので、**新規企業誘致を図る上でも大きなPRポイント**となっています。(H30.10ヒアリング結果)

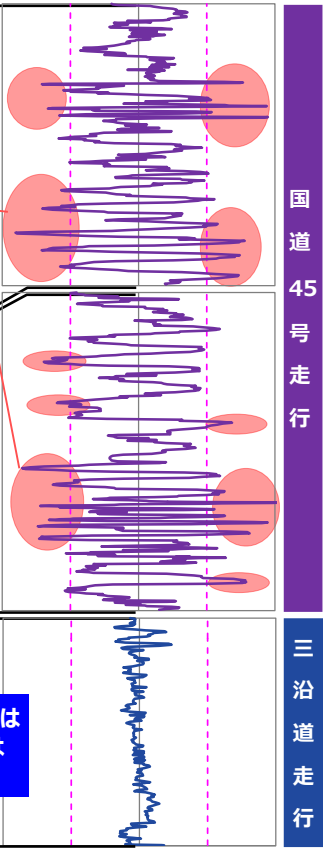
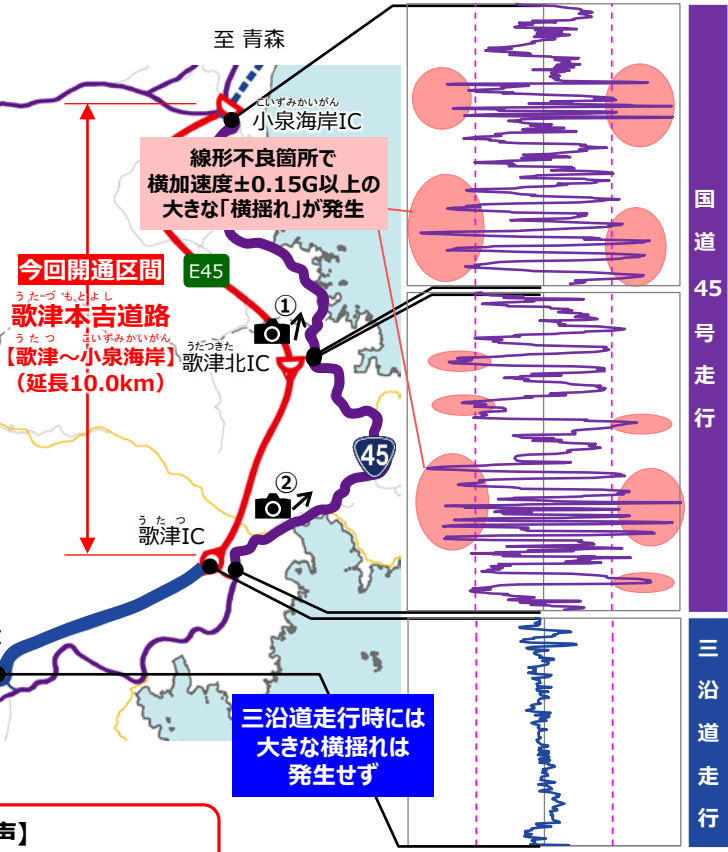
うたつもとよし もとよしけんぬま
 【歌津本吉道路・本吉気仙沼道路(Ⅱ期)】救急搬送時の安定性・速達性が向上

- ◆ 気仙沼市から三次医療施設へ搬送する際は、9割以上が石巻赤十字病院や仙台市内の病院へ搬送
- ◆ 国道45号にはカーブ等の線形不良箇所があり、「横揺れ」等による搬送患者への負担が懸念
- ◆ 三陸沿岸道路の整備により、気仙沼市立病院から石巻赤十字病院への所要時間が約10分短縮されるなど、速達性が確保されるとともに、線形不良箇所を回避した安定した救命救急活動が可能に



【気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部の声】

- 国道45号はアップダウンやカーブが連続し、安定した搬送が難しく、搬送にも時間を要しています。三沿道が開通すれば、安定した迅速な搬送が可能となります。(H30.12ヒアリング結果)



【石巻赤十字病院医師の声】

- 脳梗塞や大動脈疾患等の処置は、時間との勝負ですが、三沿道整備により搬送時間が短縮しています。
- また、ドクターカー内での処置の際、一般道だと振動や揺れによる支障がありますが、三沿道は安定した処置・搬送が可能です。(H30.8ヒアリング結果)

【横揺れによる人体への影響】

横加速度が±0.15Gを超過すると、最高血圧の変動量が10mmHgを超過する傾向が強く、患者の安静度に影響を与える

※単位「G」は加速度の単位

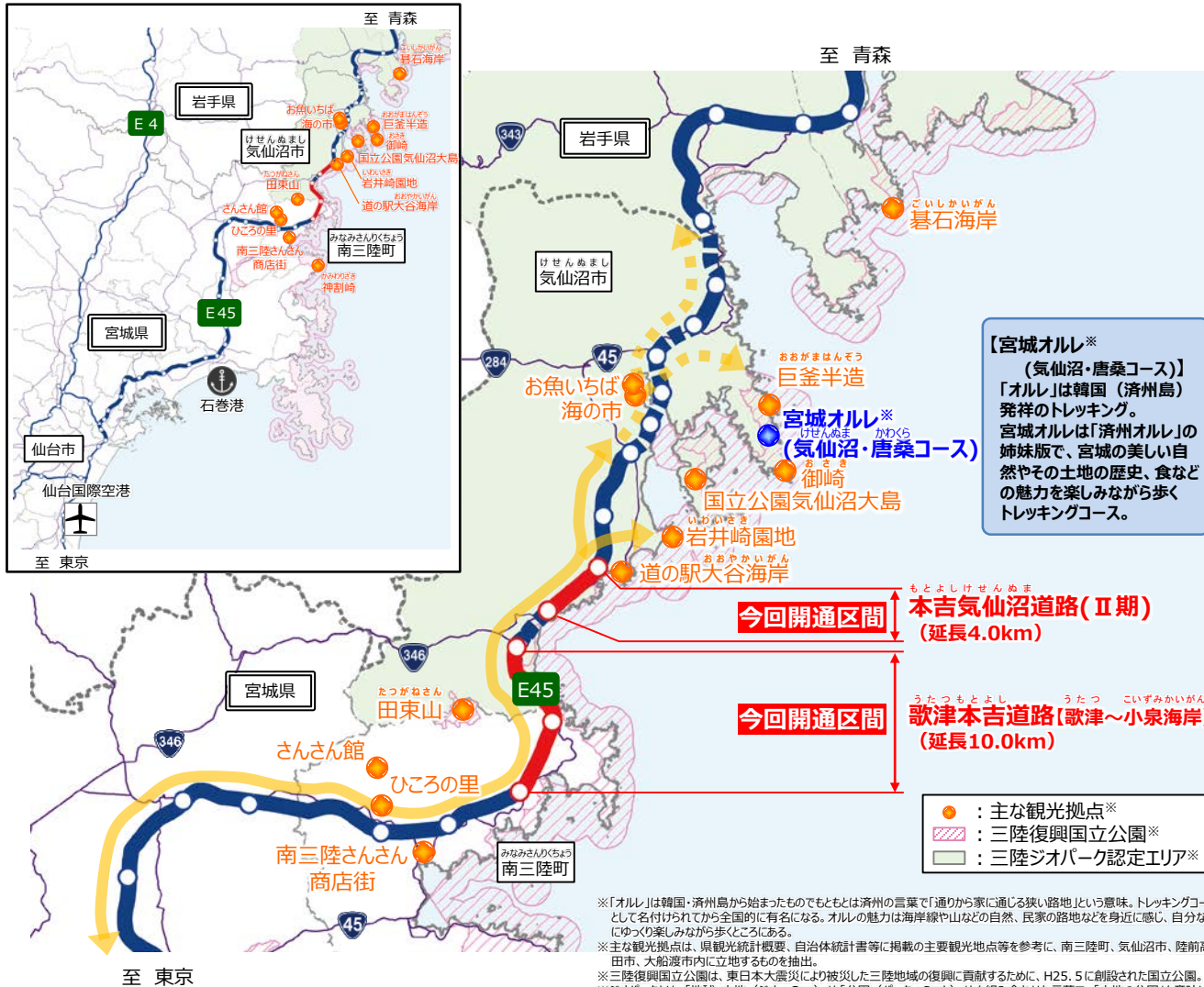
参考文献：地域の医療を支える道路構造の分析・評価(第27回日本道路会議)

国道45号走行

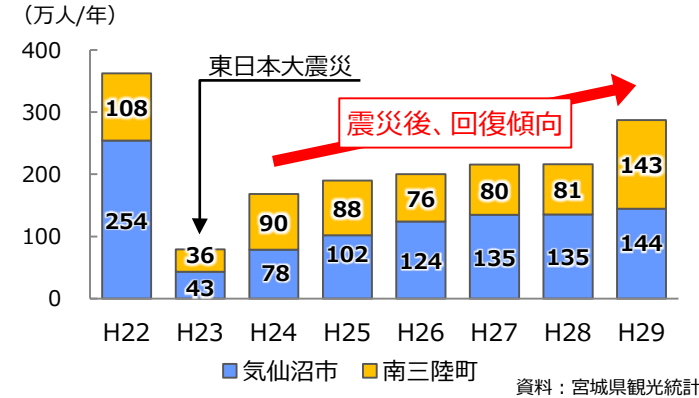
三沿道走行

うたつもとよし もとよしげせんぬま [歌津本吉道路・本吉気仙沼道路(Ⅱ期)] 観光誘客の促進・広域観光の活性化を支援

- ◆三陸沿岸道路沿線には、魅力的な観光施設・観光資源が点在しているほか、震災後には「三陸復興国立公園(H25.5指定)」「三陸ジオパーク(H25.9認定)」に指定され、更には「宮城オルレ(H30.10開設)」等の新たな観光資源も生まれている
- ◆三陸沿岸道路の延伸によるアクセス性及び周遊性の向上により、震災以降回復傾向にある南三陸町・気仙沼市の観光業を支援



【気仙沼市・南三陸町の観光入込客数の推移】



【南三陸町の声】

- 仙台方面からの自家用車でのお来訪が多く、**三治道開通により近くなった・来やすくなった**という声を多く聞いています。
- 仙台市内・仙台空港等からも90分弱で来られるようになったので、**教育旅行誘致の面でも効果が出ています。** (H30.7ヒアリング結果)

【気仙沼市の声】

- 岩手県を含め、**三治道を利用した沿岸部の周遊観光促進に**期待しています。
- また、今年度インバウンド戦略の検討体制を整えたところであり、三治道開通を契機に**インバウンド誘致に向けた取り組みも進めたい**です。 (H30.10・11ヒアリング結果)

【バスツアー会社の声】

- これまでの三治道開通により、**観光・滞在に充てる時間が増加し、立寄り先の追加も可能**となりました。
- 今後の開通により、**さらに足を伸ばせるようになり、これまでできなかったツアーも企画**できます。 (H30.12ヒアリング結果)

※「オルレ」は韓国・濟州島から始まったものでもともとは濟州の言葉で「通りから通じる狭い路地」という意味。トレッキングコースとして名付けられてから全国的に有名になる。オルレの魅力は海岸線や山などの自然、民家の路地などを身近に感じ、自分なりにゆっくり楽しみながら歩くところにある。

※主な観光拠点は、県観光統計概要、自治体統計書等に掲載の主要観光地点等を参考に、南三陸町、気仙沼市、陸前高田市、大船渡市内に立地するものを抽出。

※三陸復興国立公園は、東日本大震災により被災した三陸地域の復興に貢献するために、H25.5に創設された国立公園。

※ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球を学び、丸ごと楽しむことができる場所。三陸ジオパークは、H25.9に日本ジオパークとして認定された日本一広大なジオパーク。